



研究部だより

令和7年2月 27 日発行

第7号

担当:小島

今年度も残すところ1か月となり、今年度の研究部だよりも最終号となりました。他学部の授業実践等が、日々の授業づくりのヒントになっていたら幸いです。今月の「研究部だより」は小学部高ブロックの授業実践紹介と研修報告です。日々の授業のなかで、他者に伝えることの手段としてタブレット端末を活用している様子を紹介しています。今年度も研究部だよりの執筆に御協力いただきありがとうございました。

ICT を活用した授業実践①

小学部5年 国語・算数、生活単元学習

授業者 大日向、船水

対象生徒の様子

- ・タブレット端末の利用に慣れており、文字入力や撮影などの基本的な操作ができる。余暇時間に「Safari」や「YouTube」で検索をする、音楽では「GarageBand」で作曲をするなど、様々なアプリケーションを利用したことがある。また、初めてのアプリケーションでも画面の表示を手掛かりにして試行錯誤する中で使い方を理解していく。
- ・平仮名や片仮名、身の回りでよく見る漢字や英語の「読み」はある程度できる。「書き」には苦手意識があり、すぐに「分からない」「教えて」と言うことが多い。
- ・興味関心があることを一方的に話す。しかし、自分の気持ちや思い、提供された学習課題に関わる説明や感想を話すことは難しい。

ICT 活用の意図

- ・「書くこと」に代わる手段としてタブレット端末を利用することで、自分が伝えたい、説明したいことを適切に表現する。
- ・事前にタブレット端末に自分が伝えたい、説明したいことを表現する（まとめる）ことで、相手に分かりやすいように「話す」。

ICT 活用の成果

- ・アプリケーション「keynote」を利用することで、「分からない」など後ろ向きな言動は出さず、自分で考えたクイズの問題や回答を複数枚のスライドとして作成した。（文字や画像を交えて。）
- ・作成したスライドを元にして集団の前で話し、お楽しみ会のクイズを進行した。



研修報告

報告者：荒 真里奈

研修名「第 39 回北海道特別支援学校養護教員研究協議会研究会」 1 月 8 日（水）

内容

「先天的疾患を持つ子どもたちの健康管理について」

講師：社会医療法人母恋 天使病院 外木 秀文 氏

小児の先天異常、遺伝性疾患、遺伝相談などが専門の先生です。今回は、先天的疾患を持つ子どもの症状や治療の実際、健康管理のポイントについて等をご説明いただきました。

学びのポイント

〔ダウン症〕

- ・ 21 番染色体の過剰により、成長・発達遅滞、さまざまな合併症をおこす疾患。
- ・ 幼少期は、体が小さく、運動能力も低いですが、人と仲良しになる力はあるため、同年代の子どもたちと遊ばせることが大切。
- ・ コミュニケーションは、短文でわかりやすい声かけを行う。非言語的コミュニケーション（身振りや絵など）を活用する。わかってあげようとする姿勢を忘れずに。

〔プラダー・ウィリー症候群〕

- ・ 15 番染色体の異常でおこる、筋緊張低下、低身長、性成熟障害、知的障害、過食、衝動性などの症状がみられる疾患。
- ・ 過食により肥満となり、高血圧、糖尿病、睡眠時無呼吸症候群などの様々な合併症を引き起こす。医師と相談しながら指導・支援を行う。間食をなるべく与えない、給食の配慮などが必要。
- ・ 衝動性に対して向精神薬を使うことがあるが、副作用で食欲増進し肥満になることもある。

〔重症心身障害児〕

- ・ 重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態。筋緊張の亢進による変形拘縮の進行、嚥下障害、胃食道逆流、骨粗鬆症、消化管出血などの合併症が生じる。
- ・ 重症度に応じた診療や健診のプランニングが必要。保護者、医療、教員の共同が大切。